報道発表　文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和７年７月１４日

令和７年度全国学力・学習状況調査の結果公表①（正答率等）について

令和７年度全国学力・学習状況調査（以下「令和７年度調査」という。）については、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和７年６月６日付け７文科教第507号文部科学省総合教育政策局長通知）に従い、国による結果公表は３段階に分けて行うこととしています。
本年４月に実施した令和７年度調査の１段階目の結果公表（結果公表①）として、正答率・IRTバンド分布などの全国平均等を公表します。

１．公表資料

本日、令和７年度調査に参加した各学校にも結果を返却するとともに、学校への返却内容を設置管理者や都道府県教育委員会にも提供します。今回の結果公表①は、各種帳票の学校への返却のタイミングに合わせて、各教科の調査・質問調査の全体的な実施状況、学校に返却される児童生徒向けの個人票に記載される全国平均等の情報、CBTの最終的な実施状況、支援を要する児童生徒や学校外からCBT調査に参加した児童生徒の状況を取りまとめて、以下の資料を提供するものです。

資料１　　令和７年度全国学力・学習状況調査　CBT調査の実施状況
資料２　　令和７年度全国学力・学習状況調査　実施後アンケート（速報値）
資料３－１　令和７年度全国学力・学習状況調査　実施概況（小学校）
資料３－２　令和７年度全国学力・学習状況調査　実施概況（中学校）
資料３－３　令和７年度全国学力・学習状況調査　問題別調査結果　国語
資料３－４　令和７年度全国学力・学習状況調査　問題別調査結果　算数・数学
資料３－５　令和７年度全国学力・学習状況調査　問題別調査結果　理科

なお、各教科の個別の問題の解答、質問調査の個別の質問項目の回答、クロス集計等の分析結果については、２段階目の結果公表（結果公表②）で、都道府県・指定都市別の分析結果については、３段階目の結果公表（結果公表③）でお示しする予定です。

２．IRT を用いた結果返却に関する資料（令和７年７月７日にホームページで公表）

令和７年度「中学校理科」の結果は、これまでの正答数・率に代えて、IRT スコア・バンドで表示・返却します。IRT（項目反応理論）に基づく調査結果について関係者の理解を得るため、学校への結果返却に先立ち、説明動画及びリーフレットを公表していますので、お知らせします。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html

・説明動画
・令和７年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRT を用いた結果返却について
・令和７年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」個人票 リーフレット

３．留意点

全国学力・学習状況調査は、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なります。このため、各教科の正答率について、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意いただきますようお願いします。

なお、令和 10 年度以降、CBT・IRT の導入初年度（中学校理科は令和７年度、英語は令和８年度、国語・算数・数学は令和９年度、小学校理科は令和 10 年度）の全国平均を基準値とした経年比較をすることが可能となります。

＜担当＞
文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）付
学力調査室（内線 3726）
電話：03－5253－4111（代表）
03－6734－3726（直通）

資料１

令和７年度全国学力･学習状況調査　CBT 調査の実施状況

令和７年７月 14 日
文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）付学力調査室

令和７年度全国学力･学習状況調査「中学校理科」の実施状況は、以下のとおりです。なお、これは調査対象の児童生徒のいる各学校から提出された「調査終了報告」、令和 7 年 5 月 13 日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」、及び MEXCBT に記録された集計結果に基づくものです。

１．学校単位での実施状況

参加した学校数（中学校等）　：　9,611 校
・うち「中学校理科」を実施した学校数　：　9,599 校（実施率 99.88%）
・うち「中学校理科」を実施しなかった学校数：　12 校（未実施率 0.12%）

「中学校理科」を実施した学校数				「中学校理科」を実施しなかった学校数	
調査実施日に調査を実施、完了した学校数	調査実施日に調査が完了せず、後日実施を行った学校数				
	ネットワーク･端末等の理由	実施準備面の理由	その他	実施準備･操作面の理由	その他(生徒の体調不良等)
9,497 校（98.82%）	**18 校（0.19%）**	**26 校（0.27%）**	**58 校（0.60%）**	**4 校（0.04%）**	**8 校（0.08%）**

＊4 月 30 日までに後日実施することで、採点、結果返却が可能。

（ネットワーク･端末等の理由で調査が完了しなかった学校で生じた事象と、後日実施までに取った対応）

・学校ネットワークのサーバーが故障した
（対応）学校ネットワークのサーバーを復旧させた
・セキュリティソフトウェア等の意図しない影響で動画や画像が表示されなかった
（対応）フィルタリングの解除等、セキュリティソフトウェア等の設定変更を行った

（実施しなかった学校の不実施理由）

・実施準備･操作面の理由：４校
（例）後日実施期間があることを知らなかった
　　　学習 e ポータルのアカウントを準備していなかった
・その他（生徒の体調不良等）：８校

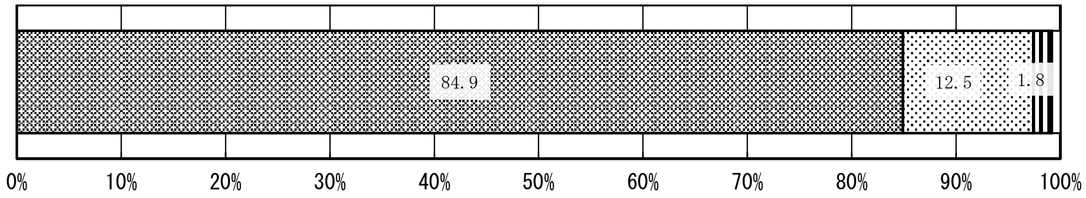
２．生徒単位での実施状況

	調査実施日に調査を実施、完了した生徒数	後日実施等を行った生徒数	合計
中学校理科	890,167 人	13,361 人	903,528 人
（参考）中学校国語	896,213 人	8,250 人	904,463 人
（参考）中学校数学	896,785 人	8,223 人	905,008 人

３．「中学校理科」に関する生徒質問調査の回答状況

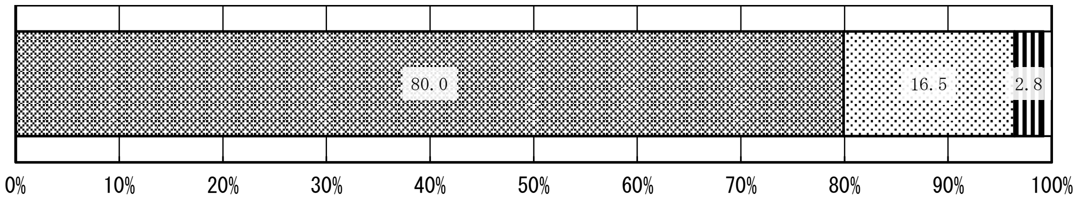
（質問）今年度の中学校理科の教科調査は、コンピュータを使っての実施でしたが、操作方法が分からない問題はどのくらいありましたか

なかった：84.9%　**一部あった：12.5%**　**多くあった：1.8%**　**無回答：0.8%**



（質問）今年度の中学校理科の教科調査は、コンピュータを使っての実施でしたが、機器の不具合等の影響で解答しにくいと感じることがありましたか

全くなかった：80.0%　**時々あった：16.5%**　**多くあった：2.8%**　**無回答：0.7%**



４．学校外実施の状況

小学校児童：2,887 人

中学校生徒：1,639 人

*オンライン方式の中学校理科又は児童生徒質問調査を学校外で実施した児童生徒数
令和 7 年 5 月 13 日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）
（回収率：小学校 65.7%、中学校 62.3%）

資料２

令和７年度全国学力･学習状況調査 実施後アンケートの集計結果（速報値）

令和７年７月14日

文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）付学力調査室

１．実施後アンケートの概要

趣旨･目的

・令和７年度全国学力･学習状況調査について、長期欠席児童生徒、特別な教育的支援を必要とする児童生徒、外国人児童生徒等の調査への参加状況を把握し、支援策の検討･充実につなげる。

・今後の全国学力･学習状況調査に関する意見等を教育委員会･学校から収集する。

対象

・令和７年度全国学力･学習状況調査に参加した全ての小学校･中学校等【匿名】

実施期間

令和７年５月13日(火)～６月２日(月)

回収率

小学校 65.7%、中学校 62.3%

（※任意回答）

2．実施後アンケートの集計結果（速報値）

(1) 支援が必要な児童生徒の参加状況

（注）項目間の重複あり。

小学校

長期欠席児童	障害がある児童	日本語指導が必要な児童
11,314人	**26,545人**	**2,626人**

中学校

長期欠席生徒	障害がある生徒	日本語指導が必要な生徒
14,893人	**8,322人**	**1,635人**

(２) 各学校が令和７年度調査の個人票を児童生徒・保護者に返却する時期

（アンケート実施時点の予定）

小学校

～7月 31 日	8月	9月以降	まだ決めていない	無回答	合計
4,161 校 **(34.2%)**	**615 校** **(5.1%)**	**5,460 校** **(44.9%)**	**1,839 校** **(15.1%)**	**88 校** **(0.7%)**	**12,163 校** **(100%)**

中学校

～7月 31 日	8月	9月以降	まだ決めていない	無回答	合計
2,804 校 **(46.7%)**	**470 校** **(7.8%)**	**1,435 校** **(23.9%)**	**1,252 校** **(20.9%)**	**41 校** **(0.7%)**	**6,002 校** **(100%)**

令和７年度全国学力・学習状況調査　小学校調査

実施概況

全国

※１：Ａ表、Ｃ表中の「学校数」の「調査対象者在籍学校数」は、令和７年４月８日時点における学校数。
※２：Ａ表、Ｂ表、Ｃ表中の「児童数」は、該当解答（回答）用紙を提出した（またはオンライン方式で回答した）児童数。
※３：Ｂ表中の「学校数」の「実施数」は、学校全体として４月１８日以降４月３０日までに調査を実施した学校数。
※４：Ｂ表中の「児童数」は、４月１８日以降４月３０日までに実施した調査の解答用紙を提出した児童数。
学校全体としては４月１７日に調査を実施したが、欠席・早退・遅刻等により４月１７日に調査を実施できなかった児童のうち、４月１８日以降４月３０日までに調査を実施した児童を含む。

【Ａ表：４月１７日に調査を実施】

	学校数			児童数		
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率（%）	国語	算数	理科
全国	18,639	18,470	99.1	948,862	949,125	949,308
小学校	18,221	18,076	99.2	939,336	939,592	939,771
義務教育学校（前期課程）	255	252	98.8	9,187	9,201	9,203
特別支援学校（小学部）	163	142	87.1	339	332	334
国立学校	75	75	100.0	6,133	6,132	6,136
小学校	66	66	100.0	5,704	5,704	5,707
義務教育学校（前期課程）	6	6	100.0	413	413	413
特別支援学校（小学部）	3	3	100.0	16	15	16
公立学校	18,313	18,269	99.8	936,137	936,399	936,576
小学校	17,906	17,885	99.9	927,044	927,298	927,472
義務教育学校（前期課程）	248	246	99.2	8,774	8,788	8,790
特別支援学校（小学部）	159	138	86.8	319	313	314
私立学校	251	126	50.2	6,592	6,594	6,596
小学校	249	125	50.2	6,588	6,590	6,592
義務教育学校（前期課程）	1	0	0.0			
特別支援学校（小学部）	1	1	100.0	4	4	4

	平均正答数（正答率）					
	国語	正答率（%）	算数	正答率（%）	理科	正答率（%）
全国	9.4 / 14	67.0	9.3 / 16	58.2	9.7 / 17	57.3
国立学校	11.2 / 14	80.1	12.2 / 16	76.2	12.1 / 17	70.9
公立学校	9.4 / 14	66.8	9.3 / 16	58.0	9.7 / 17	57.1
私立学校	10.6 / 14	75.4	11.6 / 16	72.3	10.9 / 17	64.1

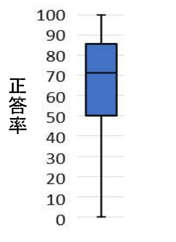
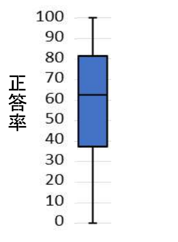
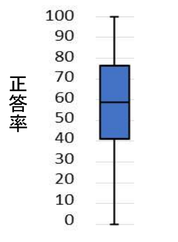
【Ｂ表：４月１８日以降４月３０日までに調査を実施（参考）】

	学校数			児童数		
		実施数		国語	算数	理科
全国	―	18	―	17,307	17,179	17,064
小学校	―	12	―	17,108	16,981	16,858
義務教育学校（前期課程）	―	1	―	182	178	183
特別支援学校（小学部）	―	5	―	17	20	23
国立学校	―	0	―	78	76	75
小学校	―	0	―	74	72	71
義務教育学校（前期課程）	―	0	―	4	4	4
特別支援学校（小学部）	―	0	―			
公立学校	―	16	―	17,092	16,965	16,853
小学校	―	10	―	16,897	16,771	16,651
義務教育学校（前期課程）	―	1	―	178	174	179
特別支援学校（小学部）	―	5	―	17	20	23
私立学校	―	2	―	137	138	136
小学校	―	2	―	137	138	136
義務教育学校（前期課程）	―	0	―			
特別支援学校（小学部）	―	0	―			

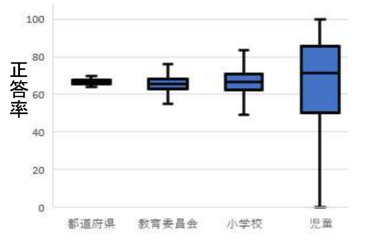
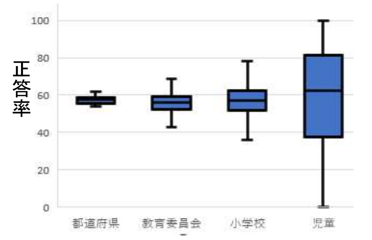
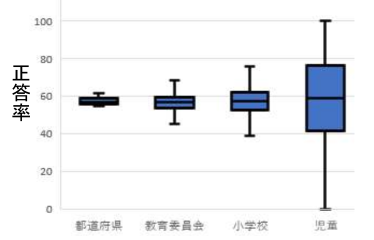
【Ｃ表：実施状況の総計】

	学校数			児童数			
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率（%）	国語	算数	理科	質問
全国	18,639	18,492	99.2	966,169	966,304	966,372	949,570
小学校	18,221	18,090	99.3	956,444	956,573	956,629	939,981
義務教育学校（前期課程）	255	253	99.2	9,369	9,379	9,386	9,232
特別支援学校（小学部）	163	149	91.4	356	352	357	357
国立学校	75	75	100.0	6,211	6,208	6,211	6,116
小学校	66	66	100.0	5,778	5,776	5,778	5,685
義務教育学校（前期課程）	6	6	100.0	417	417	417	415
特別支援学校（小学部）	3	3	100.0	16	15	16	16
公立学校	18,313	18,289	99.9	953,229	953,364	953,429	937,001
小学校	17,906	17,897	99.9	943,941	944,069	944,123	927,846
義務教育学校（前期課程）	248	247	99.6	8,952	8,962	8,969	8,817
特別支援学校（小学部）	159	145	91.2	336	333	337	338
私立学校	251	128	51.0	6,729	6,732	6,732	6,453
小学校	249	127	51.0	6,725	6,728	6,728	6,450
義務教育学校（前期課程）	1	0	0.0				
特別支援学校（小学部）	1	1	100.0	4	4	4	3

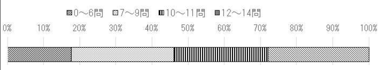
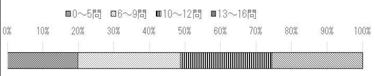
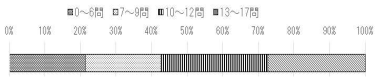
【全国(国公私)の正答率の分布】

	国語	算数	理科
			
第３四分位	85.7	81.3	76.5
第２四分位	71.4	62.5	58.8
第１四分位	50.0	37.5	41.2
標準偏差	21.7	25.3	22.5

【様々な集計単位で見る正答率のばらつき(公立)】

	国語				算数				理科			
												
	都道府県	教育委員会	学校	児童	都道府県	教育委員会	学校	児童	都道府県	教育委員会	学校	児童
平均正答率	66.7	65.3	66.2	66.8	57.3	55.4	57.1	58.0	57.3	56.5	57.1	57.1
第３四分位	67.7	68.2	70.7	85.7	58.6	58.9	62.5	81.3	58.6	59.5	61.8	76.5
第２四分位	66.3	65.5	66.4	71.4	57.5	55.7	57.1	62.5	56.9	56.5	57.2	58.8
第１四分位	65.5	62.8	62.1	50.0	55.5	52.5	51.9	37.5	55.9	53.6	52.6	41.2
標準偏差	1.6	5.8	7.5	21.7	2.3	7.0	8.9	25.3	2.0	6.3	7.9	22.6

【全国(国公私)の正答数ごとの層分布】

	国語				算数				理科			
	 層分布				 層分布				 層分布			
層	D層	C層	B層	A層	D層	C層	B層	A層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～6問	7～9問	10～11問	12～14問	0～5問	6～9問	10～12問	13～16問	0～6問	7～9問	10～12問	13～17問
割合(%)	17.6	28.5	26.0	27.9	19.9	28.9	25.6	25.6	21.4	21.2	30.1	27.3

令和７年度全国学力・学習状況調査　　中学校調査

実施概況

全国

※１：Ａ表、Ｃ表中の「学校数」の「調査対象者在籍学校数」は、令和７年４月８日時点における学校数。
※２：Ａ表、Ｂ表、Ｃ表中の「生徒数」は、該当解答（回答）用紙を提出した（またはオンライン方式で回答した）生徒数。
※３：Ｂ表中の「学校数」の「実施数」は、学校全体として４月１８日以降４月３０日までに調査を実施した学校数。
※４：Ｂ表中の「生徒数」は、４月１８日以降４月３０日までに実施した調査の解答用紙を提出した（またはオンライン方式で回答した）生徒数。
　　学校全体としては次の実施日に調査を実施したが、欠席・早退・遅刻等により次の実施日に調査を実施できなかった生徒のうち、
　　４月１８日以降４月３０日までに調査を実施した生徒を含む。
　　　４月１７日（国語、数学）　４月１４日～４月１７日（理科）

【Ａ表：国語・数学は４月１７日に調査を実施、理科は４月１４日から４月１７日にCBT方式で調査を実施】

	学校数			生徒数		
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率（%）	国語	数学	理科
全国	10,194	9,584	94.0	896,213	896,785	890,167
中学校	9,675	9,094	94.0	881,581	882,141	875,570
義務教育学校（後期課程）	262	260	99.2	9,078	9,085	9,048
中等教育学校（前期課程）	59	49	83.1	5,093	5,101	5,106
特別支援学校（中学部）	198	181	91.4	461	458	443
国立学校	80	77	96.3	9,117	9,128	9,117
中学校	67	65	97.0	8,165	8,174	8,163
義務教育学校（後期課程）	6	5	83.3	467	467	458
中等教育学校（前期課程）	4	4	100.0	457	459	465
特別支援学校（中学部）	3	3	100.0	28	28	31
公立学校	9,311	9,272	99.6	870,560	871,097	864,634
中学校	8,827	8,805	99.8	857,541	858,068	851,654
義務教育学校（後期課程）	255	255	100.0	8,611	8,618	8,590
中等教育学校（前期課程）	35	35	100.0	3,984	3,990	3,987
特別支援学校（中学部）	194	177	91.2	424	421	403
私立学校	803	235	29.3	16,536	16,560	16,416
中学校	781	224	28.7	15,875	15,899	15,753
義務教育学校（後期課程）	1	0	0.0			
中等教育学校（前期課程）	20	10	50.0	652	652	654
特別支援学校（中学部）	1	1	100.0	9	9	9

	平均正答数（正答率）				平均IRTスコア
	国語	正答率（%）	数学	正答率（%）	理科
全国	7.6 / 14	54.6	7.3 / 15	48.8	505
国立学校	9.9 / 14	70.8	11.6 / 15	77.3	619
公立学校	7.6 / 14	54.3	7.2 / 15	48.3	503
私立学校	8.5 / 14	60.5	9.0 / 15	60.3	514

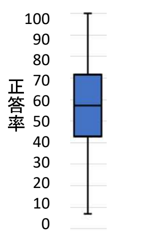
【Ｂ表：４月１８日以降４月３０日までに調査を実施（参考）】

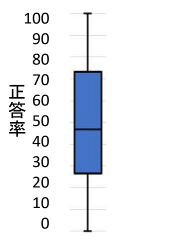
	学校数			生徒数		
		実施数		国語	数学	理科
全国	－	26	－	8,250	8,223	13,361
中学校	－	23	－	8,047	8,026	13,134
義務教育学校（後期課程）	－	1	－	172	170	187
中等教育学校（前期課程）	－	0	－	19	17	14
特別支援学校（中学部）	－	2	－	12	10	26
国立学校	－	3	－	426	423	326
中学校	－	2	－	316	314	213
義務教育学校（後期課程）	－	1	－	108	108	112
中等教育学校（前期課程）	－	0	－	1	0	0
特別支援学校（中学部）	－	0	－	1	1	1
公立学校	－	18	－	6,583	6,557	12,448
中学校	－	16	－	6,490	6,469	12,334
義務教育学校（後期課程）	－	0	－	64	62	75
中等教育学校（前期課程）	－	0	－	18	17	14
特別支援学校（中学部）	－	2	－	11	9	25
私立学校	－	5	－	1,241	1,243	587
中学校	－	5	－	1,241	1,243	587
義務教育学校（後期課程）	－	0	－			
中等教育学校（前期課程）	－	0	－			
特別支援学校（中学部）	－	0	－			

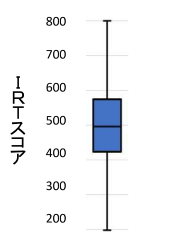
【Ｃ表：実施状況の総計】

	学校数			生徒数			
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率（%）	国語	数学	理科	質問
全国	10,194	9,611	94.3	904,463	905,008	903,528	904,413
中学校	9,675	9,118	94.2	889,628	890,167	888,704	889,575
義務教育学校（後期課程）	262	261	99.6	9,250	9,255	9,235	9,245
中等教育学校（前期課程）	59	49	83.1	5,112	5,118	5,120	5,114
特別支援学校（中学部）	198	183	92.4	473	468	469	479
国立学校	80	80	100.0	9,543	9,551	9,443	9,454
中学校	67	67	100.0	8,481	8,488	8,376	8,380
義務教育学校（後期課程）	6	6	100.0	575	575	570	575
中等教育学校（前期課程）	4	4	100.0	458	459	465	467
特別支援学校（中学部）	3	3	100.0	29	29	32	32
公立学校	9,311	9,291	99.8	877,143	877,654	877,082	877,839
中学校	8,827	8,822	99.9	864,031	864,537	863,988	864,736
義務教育学校（後期課程）	255	255	100.0	8,675	8,680	8,665	8,670
中等教育学校（前期課程）	35	35	100.0	4,002	4,007	4,001	3,995
特別支援学校（中学部）	194	179	92.3	435	430	428	438
私立学校	803	240	29.9	17,777	17,803	17,003	17,120
中学校	781	229	29.3	17,116	17,142	16,340	16,459
義務教育学校（後期課程）	1	0	0.0				
中等教育学校（前期課程）	20	10	50.0	652	652	654	652
特別支援学校（中学部）	1	1	100.0	9	9	9	9

【全国（国公私）の正答率・IRTスコアの分布】

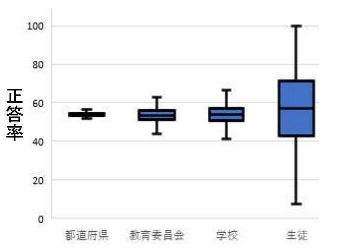


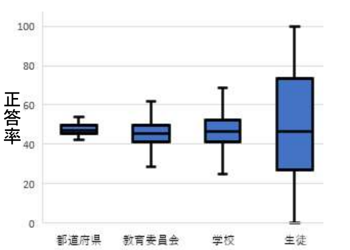


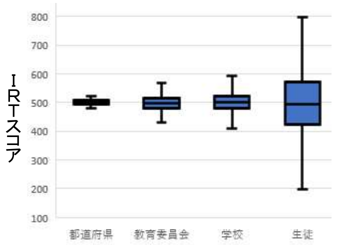


	国語	数学	理科
第３四分位	71.4	73.3	573.9
第２四分位	57.1	46.7	495.8
第１四分位	42.9	26.7	423.2
標準偏差	19.5	28.3	124.6

【様々な集計単位で見る正答率・IRTスコアのばらつき（公立）】

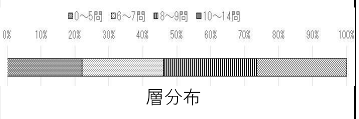


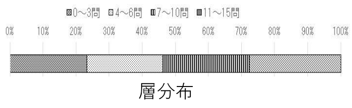


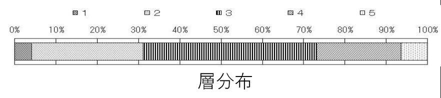


	国語				数学				理科			
	都道府県	教育委員会	学校	生徒	都道府県	教育委員会	学校	生徒	都道府県	教育委員会	学校	生徒
平均正答率・IRTスコア	53.9	53.8	54.0	54.3	47.2	46.1	46.9	48.3	501.8	501.5	502.2	503.3
第３四分位	54.6	55.9	57.1	71.4	49.4	49.6	52.4	73.3	506.7	516.8	523.7	572.5
第２四分位	53.9	53.6	54.0	57.1	47.1	45.6	46.7	46.7	500.8	499.2	501.0	494.6
第１四分位	53.2	51.1	50.8	42.9	45.3	41.1	41.2	26.7	495.4	481.2	478.4	422.1
標準偏差	1.5	5.4	6.4	19.5	3.0	8.6	10.1	28.2	13.9	36.8	42.3	124.0

【全国（国公私）の正答数・IRTバンドごとの層分布】







	国語				数学				理科				
層・IRTバンド	D層	C層	B層	A層	D層	C層	B層	A層	1	2	3	4	5
正答数・IRTスコア	0～5問	6～7問	8～9問	10～14問	0～3問	4～6問	7～10問	11～15問	～317	318～442	443～567	568～691	692～
割合（%）	22.1	24.0	27.5	26.5	23.3	23.0	26.1	27.7	4.1	27.0	42.0	20.5	6.4

令和７年度全国学力・学習状況調査　　小学校調査

問題別調査結果　［国語］

全国ー児童（国・公・私立）

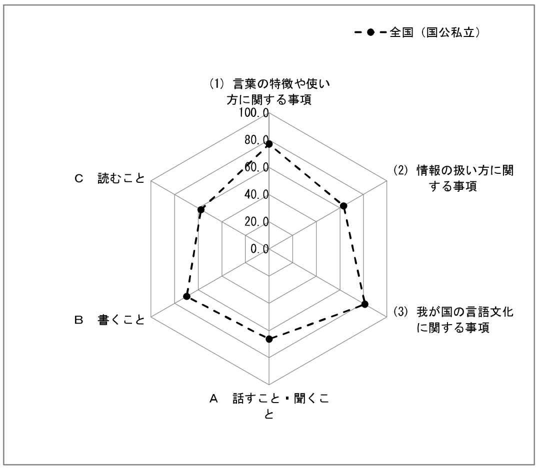
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公私立）	対象児童数	全国（国公私立）
	18,466		948,862

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 全国（国公私立）
全体			14	67.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	63.2
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.3
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	66.4
		B　書くこと	3	69.7
		C　読むこと	4	57.7
評価の観点		知識・技能	4	74.6
		思考・判断・表現	10	63.9
		主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式		選択式	9	64.9
		短答式	3	78.6
		記述式	2	59.0

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項	知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項	思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと	思考力、判断力、表現力等 B 書くこと	思考力、判断力、表現力等 C 読むこと	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	問題形式 短答式	問題形式 記述式	全国（国公私立） 正答率（％）	全国（国公私立） 無解答率（％）
１一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				５・６ア				○		○			53.5	0.5
１二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		５・６イ					○			○			63.2	0.5
１三（１）	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				５・６エ				○		○			72.0	0.6
１三（２）	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				５・６エ				○		○			73.8	0.6
２一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					３・４イ			○		○			65.6	0.8
２二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					５・６エ			○		○			81.9	0.8
２三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					５・６ウ			○				○	61.4	4.9
２四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（<u>この</u>み）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	５・６エ						○				○		81.8	7.1
２四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（<u>あつ</u>い日）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	５・６エ						○				○		72.3	4.2
３一	【資料１】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			５・６ウ				○			○			81.3	1.3
３二（１）	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料２】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						１・２ア		○			○		81.8	2.8
３二（２）	【資料３】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる						５・６ア		○		○			51.5	2.4
３三（１）	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Ａに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						５・６ウ		○		○			41.0	3.4
３三（２）	【資料１】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料２】、【資料３】、【資料４】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						５・６ウ		○				○	56.5	16.1

問題別調査結果　［国語］

全国－生徒（国・公・私立）

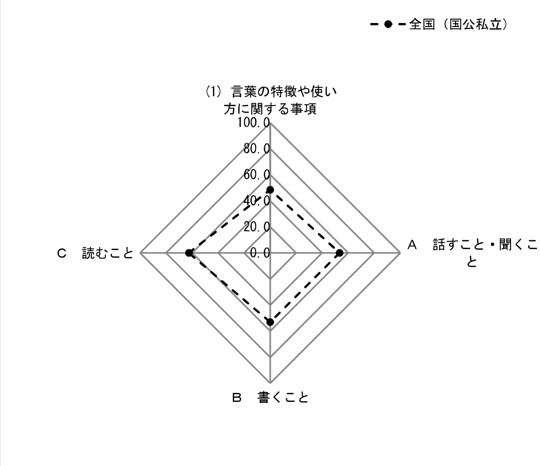
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公私立）	対象生徒数	全国（国公私立）
	9,551		896,213

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 全国（国公私立）
全体			14	54.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	4	53.4
		B　書くこと	5	53.1
		C　読むこと	3	62.6
評価の観点		知識・技能	2	48.5
		思考・判断・表現	12	55.6
		主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式		選択式	8	64.2
		短答式	2	73.8
		記述式	4	25.6

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項	知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項	思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと	思考力、判断力、表現力等 B 書くこと	思考力、判断力、表現力等 C 読むこと	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	問題形式 短答式	問題形式 記述式	全国（国公私立） 正答率（％）	全国（国公私立） 無解答率（％）
１一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	２ウ						○			○			35.7	0.2
１二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					１ア			○		○			82.7	0.2
１三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる					１イ			○		○			63.6	0.5
１四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					１ウ			○				○	31.2	1.6
２一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる				２ウ				○		○			38.3	0.3
２二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				１ウ				○		○			78.1	0.3
２三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				２イ				○		○			73.7	0.6
２四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				２ウ				○				○	23.4	4.0
３一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						１エ		○		○			80.2	0.5
３二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる						２ア		○			○		90.0	3.9
３三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	１ウ						○			○			61.3	0.8
３四	「一　榎木の実」に書かれている場面が、「二　釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						１エ		○				○	17.4	27.7
４一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					１エ			○			○		57.7	33.1
４二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					１エ			○				○	30.4	18.8

令和７年度全国学力・学習状況調査　　　　小学校調査

問題別調査結果　［算数］

全国－児童（国・公・私立）

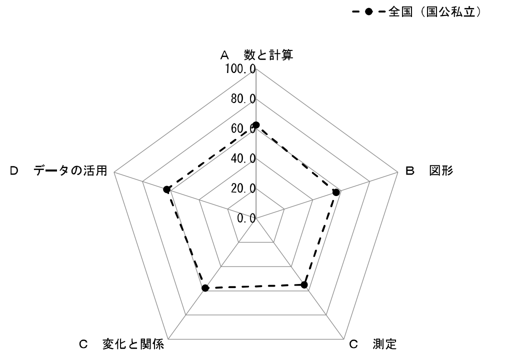
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公私立）	対象児童数	全国（国公私立）
	18,466		949,125

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 全国（国公私立）
全体		16	58.2
学習指導要領の領域	Ａ　数と計算	8	62.5
	Ｂ　図形	4	56.4
	Ｃ　測定	2	55.0
	Ｃ　変化と関係	3	57.7
	Ｄ　データの活用	5	62.8
評価の観点	知識・技能	9	65.7
	思考・判断・表現	7	48.5
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	6	67.4
	短答式	6	64.2
	記述式	4	35.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 Ａ 数と計算	Ｂ 図形	Ｃ 測定	Ｃ 変化と関係	Ｄ データの活用	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式	記述式	全国（国公私立） 正答率（％）	無解答率（％）
１（１）	２０２２年の全国のブロッコリーの出荷量が２００２年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	３(４) ア(ア)				３(１) ア(イ)	○			○			78.8	0.4
１（２）	都道府県Ａのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					３(１) ア(イ) ５(１) ア(ア) イ(ア)		○				○	31.2	0.9
１（３）	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					３(１) ア(ア)	○			○			71.8	3.5
１（４）	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン１個とブロッコリー４個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	４(６) ア(ア) イ(ア)						○			○		74.7	2.6
２（１）	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		４(１) ア(イ)				○				○		58.4	1.2
２（２）	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		４(１) ア(イ)				○			○			50.5	0.7
２（３）	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		４(５) ア(ア)				○			○			79.4	1.0
２（４）	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる		５(３) ア(ア) ※					○				○	37.3	2.6
３（１）	０．４＋０．０５について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	４(４) ア(イ) ア(ウ)					○				○		74.3	2.8
３（２）	３／４＋２／３について、共通する単位分数と、３／４と２／３が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	５(５) ア(ア) イ(ア)						○				○	23.3	15.6
３（３）	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、１の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	３(６) ア(ア) ア(イ)					○				○		35.4	7.8
３（４）	１／２＋１／３を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	５(５) ア(ア)					○				○		81.5	4.1
４（１）	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	３(４) ア(ア)			４(１) イ(ア)	５(２) ア(ア)		○		○			82.9	2.5
４（２）	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	３(４) ア(ア)		３(１) ア(ア)	４(１) イ(ア)	５(２) ア(ア)		○				○	49.0	3.3
４（３）	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			３(１) ア(イ)			○				○		61.1	4.1
４（４）	１０％増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「１０％増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				５(３) イ(ア)			○		○			41.3	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

問題別調査結果　［数学］
全国－生徒（国・公・私立）

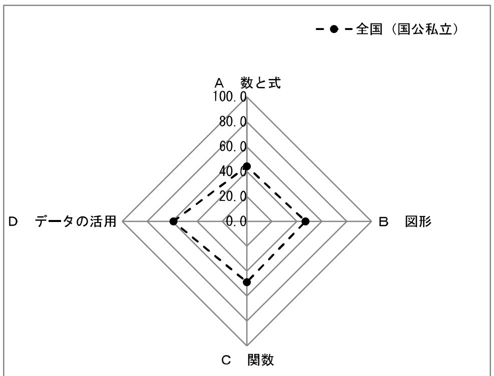
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公私立）	対象生徒数	全国（国公私立）
	9,550		896,785

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 全国（国公私立）
全体		15	48.8
学習指導要領の領域	Ａ　数と式	5	44.1
	Ｂ　図形	4	47.0
	Ｃ　関数	3	48.8
	Ｄ　データの活用	3	59.0
評価の観点	知識・技能	9	54.8
	思考・判断・表現	6	39.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	3	54.4
	短答式	7	52.5
	記述式	5	40.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 Ａ 数と式	Ｂ 図形	Ｃ 関数	Ｄ データの活用	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式	記述式	全国（国公私立） 正答率（％）	無解答率（％）
1	１から９までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1)ア(ア)				○			○			32.2	0.7
2	果汁４０％の飲み物ａｍＬに含まれる果汁の量を、ａを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1(2)ア(エ)				○				○		52.7	7.1
3	△ＡＢＣにおいて、∠Ａの大きさが５０°のときの頂点Ａにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2(1)ア(イ)			○				○		58.3	1.9
4	一次関数ｙ＝６ｘ＋５について、ｘの増加量が２のときのｙの増加量を求める	一次関数ｙ＝ａｘ＋ｂについて、変化の割合を基に、ｘの増加量に対するｙの増加量を求めることができるかどうかをみる			2(1)ア(ア)		○				○		35.4	7.9
5	ある学級の生徒４０人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、２０ｍ以上２５ｍ未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1)ア(ア)	○				○		43.1	9.2
６（１）	連続する二つの３の倍数の和が９の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2(1)ア(ウ)イ(イ)				○				○		63.4	4.5
６（２）	３ｎと３ｎ＋３の和を２（３ｎ＋１）＋１と表した式から、連続する二つの３の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1)イ(イ)					○				○	26.4	24.5
６（３）	連続する三つの３の倍数の和が、９の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1)イ(イ)					○				○	45.9	19.8
７（１）	Ａの手元のカードが３枚とも「グー」、Ｂの手元のカードが３枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの１回目を行うとき、１回目にＡが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2(2)ア(ア)	○				○		77.6	3.1
７（２）	Ａの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の４枚、Ｂの手元のカードが「グー」、「チョキ」の２枚のとき、ＡとＢの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(2)イ(イ)		○				○	56.3	2.2
８（１）	Ａ駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればＣ駅とＤ駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる			1(1)ア(ウ)		○			○			72.2	2.2
８（２）	Ａ駅から６０．０ｋｍ地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1(1)イ(イ)			○				○	38.7	34.5
９（１）	四角形ＡＥＣＦが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる		2(2)ア(イ)			○			○			58.8	1.1
９（２）	平行四辺形ＡＢＣＤの辺ＣＢ、ＡＤを延長した直線上にＢＥ＝ＤＦとなる点Ｅ、Ｆを取っても、四角形ＡＥＣＦは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる		2(2)イ(ア)				○			○		37.0	7.1
９（３）	平行四辺形ＡＢＣＤの辺ＢＣ、ＤＡを延長した直線上にＢＥ＝ＤＦとなる点Ｅ、Ｆを取り、辺ＡＢと線分ＦＣの交点をＧ、辺ＤＣと線分ＡＥの交点をＨとしたとき、四角形ＡＧＣＨが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる		2(2)イ(イ)				○				○	33.8	31.2

令和７年度全国学力・学習状況調査　　小学校調査

問題別調査結果　［理科］

全国－児童（国・公・私立）

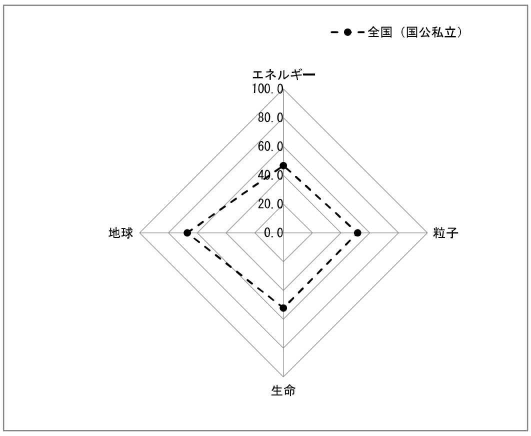
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公私立）	対象児童数	全国（国公私立）
	18,351		949,308

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 全国（国公私立）
全体			17	57.3
学習指導要領の区分・領域	Ａ区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	46.8
		「粒子」を柱とする領域	6	51.5
	Ｂ区分	「生命」を柱とする領域	4	52.2
		「地球」を柱とする領域	6	66.9
評価の観点		知識・技能	8	55.5
		思考・判断・表現	9	58.9
		主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式		選択式	11	54.9
		短答式	4	69.8
		記述式	2	45.3

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



（注）「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域 Ａ区分 「エネルギー」を柱とする領域	Ａ区分 「粒子」を柱とする領域	Ｂ区分 「生命」を柱とする領域	Ｂ区分 「地球」を柱とする領域	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式	記述式	全国（国公私立） 正答率（％）	無解答率（％）
１（１）	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップＡの土の量と水の量から、コップＢの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる				４Ｂ（３）ア（イ）※		○			○		79.6	2.5
１（２）	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる				４Ｂ（３）ア（イ）※		○				○	60.6	8.4
１（３）	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる				４Ｂ（３）ア（イ）※		○		○			78.0	0.9
２（１）	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	３Ａ（５）ア（イ）	３Ａ（４）ア（ア）			○			○			10.7	0.6
２（２）	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Ａの剣を人形Ｂに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	３Ａ（５）ア（ア）※（イ）※					○		○			43.1	0.6
２（３）	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	５Ａ（３）ア（イ）				○				○		78.1	2.7
２（４）	乾電池２個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	４Ａ（３）ア（ア）				○			○			55.3	0.8
３（１）	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる			５Ｂ（１）ア（エ）		○				○		70.8	1.5
３（２）	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			５Ｂ（１）ア		○			○			45.7	0.8
３（３）	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			５Ｂ（１）ア（イ）※			○		○			62.2	1.7
３（４）	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる			５Ｂ（１）イ			○				○	30.0	11.4
４（１）	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる		４Ａ（２）ア（イ）※				○			○		50.6	6.1
４（２）イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる		４Ａ（２）ア（ウ）		４Ｂ（４）ア（イ）	○			○			64.2	1.2
４（２）エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる		４Ａ（２）ア（ウ）		４Ｂ（４）ア（イ）	○			○			57.7	1.5
４（３）カ	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		４Ａ（２）ア（ウ）※				○		○			60.0	2.3
４（３）キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる				４Ｂ（３）ア（ア）	○			○			61.0	2.4
４（３）ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		４Ａ（２）ア（ア）※				○		○			65.8	2.4

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

公開問題別調査結果　［理科］

全国ー生徒（国・公・私立）

・以下の集計値は、４月１４日から４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。
・「問題の難易度」を示す対象としない問題については空欄となります。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			全国（国公私立）		問題の難易度	全国（国公私立）
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率（％）	無解答率（％）		対象生徒数
１（１）	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3)(ア)㋒				○			○			51.8	0.2	5	890,167
１（２）	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2)(ア)㋐				○				○	46.4	7.9	5	890,167
１（３）	地層１から地層４までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2)(ア)㋐		○		○			36.5	0.6	5	890,167
１（４）	生物１から生物４までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(3)(ウ)㋐		○			○			29.8	0.2	5	890,167
１（５）	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる		(4)(ア)㋑			○				○		45.2	8.4	4	890,167
１（６）	水道水と精製水に関する２人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる		(2)(ア)㋐				○				○	79.6	9.7	3	890,167
２（１）	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1)(ア)㋒					○				○	14.3	1.9	5	209,674
２（２）	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1)(ア)㋒				○			○			94.6	0.1	2	209,674
３（１）	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3)(ア)㋐					○		○			35.2	0.2	5	226,490
３（２）	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3)(ア)㋑				○			○			85.4	0.1	2	226,490
４（１）	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる		(2)(ア)㋐				○		○			51.0	0.1	4	228,526
４（２）	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(2)(ア)㋑			○			○			92.9	0.1	2	228,526
５（１）	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る		(2)(ア)㋐			○			○			93.0	0.1	1	225,477
５（２）	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる		(4)(イ)㋐				○				○	35.8	4.6	4	225,477
６（１）	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる			(1)(ア)㋐		○			○			66.1	0.2	4	226,490
６（２）	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる			(3)(イ)㋐			○		○			42.2	0.1	4	226,490
７（１）	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる			(3)(ウ)㋐			○		○			35.4	0.2	5	228,526
７（２）	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(4)(ア)㋐	(3)(ウ)㋐		○			○			51.8	0.2	5	228,526
８（１）	大地の変化に関する言い伝えを１つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる				(2)(イ)㋐		○				○	42.3	3.2	4	225,477
８（２）	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる				(2)(イ)㋐		○				○	18.2	1.1	5	225,477
９（１）	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる				(4)(ア)㋐		○		○			32.1	0.3	5	209,674
９（２）	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる				(4)(ア)㋐	○			○			58.5	0.3	4	209,674